

つづき

津付ダムだより

付替国道2号橋上部工の

工事が本格始動

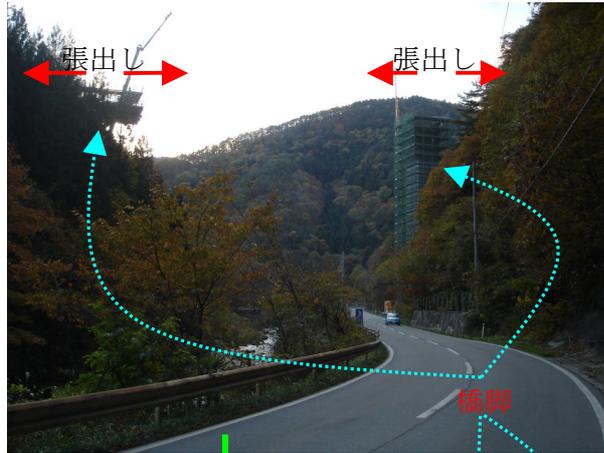
2号橋上部工工事が7月に契約(津付ダムだより第15号でお知らせしています)し、平成24年9月完成に向けて、現場作業が始まりました。

橋梁の形式は3径間連続P Cラーメン箱桁橋というもので、橋の断面が箱(中が空洞)の形をしています。

施工方法は平成21年に完成した2本の橋脚からワーゲンと呼ばれる移動作業車を用いて両側に張出していきます。

数ヶ月後には張出しが進み、道路からその様子を見ることが出来ます。また、橋脚にはエレベーターを設置していますので、地上30mの高さまで、一気に登ることが出来ます。

(現況写真)



写真では、橋脚の周りに足場を設置しています。また、その横には、資材を橋脚の上まで運ぶための大型クレーンの先端が見えます。

発行所

沿岸広域振興局土木部
大船渡土木センター
津付ダム建設事務所

お問い合わせ先

〒029-2311
気仙郡住田町世田米
字川向 102-1
TEL 0192-22-8182
FAX 0192-46-3715

津付ダム公式ホームページ
<http://www.pref.iwate.jp/~hp4580>

(おしらせ)

津付ダム建設事務所では、橋梁工事のほか、トンネル工事や大規模な切土(道路をつくるために山を切る)工事を進めており、工事ごとに、学校などを対象とした見学会を開催しています。

工事中的の見学会は、安全対策を万全に期す必要があります。このため、現在は、学校等団体での事前申し込みがあった際に安全の確保が出来ることを前提に、可能な範囲で対応を行っています。

学校や地域自治会等で見学を行いたいとお考えの方は、津付ダム建設事務所にお問い合わせください。

(次号予告)

このたよりが届く頃には、1号トンネルが貫通しています。次号で詳しくおしらせします。

※貫通とは、トンネルが完成することではなく、掘削が完了し、起点と終点がつながるということです。この後、覆工や舗装などを施工しトンネルの完成となります。

気仙川水系河川整備手法比較表の説明

津付ダム日より平成21年12月号(第11号)に掲載した「気仙川水系河川整備手法比較表」の補足説明を行っています。この表は、平成21年度に行われた大規模事業評価専門委員会での審議に使用されたものです。

今回は、事業費について、着目します。

(ダム+河川改修案→津付ダム建設と河川の改修を組み合わせで対策する案)をA案、(河川改修単独案→河川の改修のみで対策する案)をB案として比較しています。

		(ダム+河川改修案) A案		(河川改修単独案) B案	
総事業費	1/30	164億円	ダム 141億円 河川改修 23億円	94億円	河川改修 94億円
	1/70の整備に必要な追加分	170億円	河川改修 170億円	260億円	河川改修 260億円
	合計	334億円	○	354億円	△

段階的整備の計画として、今後20年程度の期間での整備を目標とした「気仙川河川整備計画」は、治水安全度を概ね30年確率(1/30)としています。また、気仙川の河川整備の最終目標(河川整備基本方針)では治水安全度1/70としています。

表の1段目では治水安全度1/30に対応する事業費を、2段目では最終目標である治水安全度1/70の整備に必要な追加分の事業費を記述しています。

A案では、ダム下流全川にわたり水位低下の効果がある津付ダムと河川改修で1/30の整備をします。津付ダムが141億円、河川改修が23億円と算定しています。(表1段目)

次に1/70を確保するための河川改修(表2段目)の追加事業費は170億円で、合わせて334億円が必要と試算しました。(完了予定は平成116年度=西暦2104年度)

B案は、津付ダムを整備せずに河川改修のみで1/30の整備をするのに94億円(表1段目)、さらに最終目標である1/70を確保するための河川改修(表2段目)の追加分が260億円で、合わせて354億円で対策するとしたものです。(完了予定は平成161年度=西暦2149年度)

A案とB案で事業費を比較し、A案が安いので、○と判定しています。

河川等への油の流出事故にご注意願います。

寒さが増してきました。暖房等で灯油の使用が増えてきます。もし油漏れを発見したら、すぐに消防署・警察署・市町村・県・国の機関等に連絡をしましょう。